# 栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第140号

令和2年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／伊沢　信恭　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ http://www.youchien.or.jp


こどもが
まんなか
PROJECT

## 令和元年度を振り返って

栃幼連理事長　石嶋　勇

天皇陛下が平成三十一年四月三十日で退位されました。天皇の退位等に関する皇室典範特例法に基づき、およそ二百年ぶりとなる、歴史的な皇位の継承が恙なくおこなわれました。皇太子殿下が五月一日ご即位され、このことにより、この新しい元号が用いられております。国家の安泰と国民の幸福への深い願いとともに日本人の心情に溶け込み我が国の歴史を紡いできました。この歴史的な瞬間に立ち会うことが出来ましたことは、この上もない喜びでした。

さて、令和元年十一月七日・八日に関東地区代表者協議会栃木大会が本県宇都宮市の東武ホテルグランデにて開催されました。開会式では来賓として栃木県知事福田富一様と栃木県議会議長早川尚秀様にご祝辞を賜りました。また、こども政策課と幼児教育センターの皆様も多数参列いただきました。そして協議テーマとして「無償化元年・今こそ問われる幼児教育の質」一日目には研修Ⅰ「幼児教育の無償化における今後の対応について」研修Ⅱ「各県の私立幼稚園・認定こども園への支援状況」「意見交換会」が開催されました。

二日目は研修Ⅲ「幼児教育・保育の信と真～激動時代に求められること～」研修Ⅳ「息抜く力は生き抜く力」最後に閉会式が行われ次年度開催県である茨城県代表者から挨拶があり、すべての日程が滞りなく終了しました。「役員の皆様お疲れ様でした」

私たちの悲願でもありました幼児教育の無償化が十月一日より実施されました。

この無償化は「すべての子どもの最善の利益が実現される制度であってほしい」と願っております。

一年間ありがとうございました。

## 令和元年度を振り返って

こども政策課長　桐渕　ゆか

五月に「令和」という新しい時代がスタートし、今年度は大きな節目の年となりました。

また、十月に幼児教育・保育の無償化が実施され、各園の皆様におかれましては、その準備等に多大な御労苦があったものと推察いたします。改めて感謝申し上げます。

さて、我が国は、急速な少子高齢化が進行し、本格的な人口減少社会が到来しており、未来を担う子どもたちを社会全体で見守り、健やかに成長することができる環境づくりが益々重要なものとなってきております。

こうした中、幼児教育や子育て支援の充実に関する県民の期待は益々高まっており、幼稚園・認定こども園は、幼児教育の場としてはもとより、地域への施設開放や保護者間の交流促進、子育てに関する情報の提供など、子育て支援の中核的施設として大きな役割を担っていただいております。

県では、これまで「とちぎ子ども・子育て支援プラン」に基づき、着実に各種施策を推進してきましたが、今年度をもって計画期間が満了となることから、来年度からの五年間を計画期間とする「とちぎ子ども・子育て支援プラン（二期計画）」を策定し、県民が安心して子どもを産み、育てることができ、子どもが健やかに成長できる地域社会の実現を目指し、結婚、妊娠・出産及び子育ての各段階に応じて切れ目ない支援を一層進めて参ります。

今後とも市町との連携はもとより、オール栃木体制で子育て支援の充実に努めて参りますので、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解や御協力をお願いいたします。

# 設置者・園長研修会

開催日：令和二年一月十七日（金）
会　場：ホテルニューイタヤ
参　加：百二十四名

## 研修一

**演題　「令和元年度私立幼稚園等指導監査結果について」**

**講師**　栃木県保健福祉部こども政策課
こども子育て支援班
係長　**谷川　尚久**氏

1　指導監査等について
・県の行う「施設監査」
・市町が行う「確認監査」
・県及び市町が行う「業務管理体制検査」
＝監査周期の確認＝
＝無償化に伴う変更点確認＝
2　今年度の指導監査等の結果概要
・幼稚園と幼保連携型認定こども園
特に
プール活動のマニュアル
給食実施に対する対応
給与規定に基づかない手当
3　主な指摘事項
ア　環境検査
・留意点
①保育室の環境
②飲料水の水質・施設設備
③学校の清潔等
④水泳プール
⑤日常の環境衛生
イ　重要事故が発生しやすい場面を想定した通報訓練
＝危機管理向上へ＝
＝実践を頑張って＝
ウ　健康診断
＝園医とよく相談を＝
・特に入園時健康診断
・職員数の対応
・社会福祉事業との関連
工一時預かり事業

**ひとこメモ**

いた本園にとっては、全体像数年ぶりに、監査を受けてを確認する良い機会となった。ただ、これまでとは違った指摘を受けて、戸惑ったこともあり、法律が変わった場合に留意する点があること、施設の型によって考えなければならない点が違うことなど、「うっかりしないよう」に注意したいと、改めて気を引き締めてみた。皆様はいかがだったろうか。

## 研修二

**演題　「栃木県幼児教育センターの事業等について」**

**講師**　栃木県幼児教育センター
センター長　**新村　幸江**氏

はじめに、令和元年度幼児教育センター調査研究の紹介があった。センターでは現在、「自ら安全に気を付けて行動する子どもを育むために～幼児期にふさわしい生活を通して～」と題するリーフレットを作成中であり、三月の発行・配布に向けて準備を進めている。届いたらそれぞれの園で指導に役立ててほしいとの話があった。

続いて、学校安全計画の策定についての説明があり、留意すべきことといてのの構えを身に付けるようにすること①安全についてのの構えを身に習慣を身に付けるようにすること②交通安全の緊急時に適切な行動がとれるようにすること③の三つを押さえるべきポイントとして示した。そしてこれらは、幼児の発達の実情を踏まえながら適切に策定することが望ましいとの話があった。

後半は、幼児教育センター事業についての説明がなされた。①幼小連携に関するもの②教育課程に関するもの③スキルに関するもの④ステージごとのもの等、令和二年度も様々な研修を計画しているので、ぜひ活用いただきたいとのことであった。（詳しくは三月配布予定の研修案内を参照）

最後に、令和二年度より教育センターでは受講管理システムが整備されるとの紹介があった。これにより、以前にも増して計画的な受講ができるようになることに期待したい。

## 研修三

**演題　「幼稚園・認定こども園を取り巻く社会環境とこれからの保育」**

**講師**　文部科学省初等中等教育局
幼児教育課
専門官　**岩岡　寛人**氏

岩岡氏のお子さんの成長を伸ばしてくれた幼児教育に係る関係者にお礼をのべることから話がはじまった。

**1、幼児教育無償化に係る最近のトピック**

メディアでは幼稚園便乗値上げと言われたが文部科学省からの幼稚園経営をみてほしいとのなげかけにより質の向上、保護者の理解に変化していった。

**園は三つを考えてほしい**

1）自園の教育についての振り返りのための時間や体制
保育者の要望だけでは成り立たない
2）要望を園で受け止めず地区町村に相談する
3）預かり保育をアウトソーシングする

**2、社会環境の変化とこれからの保育**

園がどのような経営をするのか今は園の経営に影響するが子ども達には影響はない。
影響をおよぼすのは大人になってからである。園は将来をみこんで保育していかなければならない。グラフでみても幼稚園より保育園の需要が高まり今後も継続するであろう。
女性の就業率も上昇している。今後も八割となる可能性がある。
グラフをみて子育て離れではないかと感じてしまうが、GDP成長率をみて子育て世代は将来の子どものため、老後のために二人で働くことを選択するしかないのである。
保育者にとっては子どもを中心にと考えるが核家族なども、しっかりフォローすることで子どもにとってもいい環境で育てられるようになる
幼児人口が減っているので政府は公定価格を導入し安定した経営ができるようにした。そうなると教育とサービスの質の競争となる。

**・世界のフラット化がもたらす驚異的が成長スピード**

今までは海外でイノベーションがあったら日本では改良を行い、より良い製品が生まれてきた。しかし、今は四～五年で変化していっている。アマゾンやテスラなど様々な有名企業がある。時価総額十億ドルも四年以下で達成する脅威のスピードとなっている。のである今までとは違い改良する時間がなくなっている。

**・Society5.0の到来**
**Society1.0は狩猟**
**Society2.0は農耕**
**Society3.0は工業**
**Society4.0は情報**

これからはSociety5.0インターネット、AI、ロボットに時代である。
四十七％は自動化で仕事がなくなり、六十五％の子どもは未知の職業につく。
その後、近未来について動画で説明された。

今まで優秀と考えられていた人達の能力はAIに置き換わっていく。今後どう育てるかを考えなくてはいけない。

**・エドワード・L・デシのパズル実験**

パズルを報酬と報酬なしで練習する実験をした。結果は報酬なしが優秀だった。

報酬なしは自由時間も楽しくパズルをしていたのが結果に繋がったのである。

心理的には外発的動機づけより内発的動機づけの方が能力を高められる。

**・幼児期に終わりまでに育ってほしい姿**

幼児教育は内発性動機づけをし、内発性の基礎を培うことである。だが学術的にわかっていない。

**・Head Start Impact Studyの結果**

貧富の差が激しいアメリカ。保育料も高額である。

そこで低所得者も一定の期間を教育が受けられるプログラムを実施している。

このプログラムでどこまで認知能力が高められるのかを確認するとプログラム中は効果がある。しかし一年生になると無くなってしまうという実験結果である。

**・幼児教育プログラムの平均インパクト**

幼児に短期的に就学前プログラムを実施するが成果が下がっている結果がみられた。

能力が持続できる方法を研究中である。

**・Starting Strong Survey**

保育者が子ども達とどう関わっているかを着目したデータである。

～認知能力を伸ばす取り組み～

海外は「歌やリズム遊びをする」ことが一般的である。日本は「子どもの目線に合わせる」ことが多い。

～社会情緒の発達を促す取り組み～

海外は「子ども達が互いに助け合うように促す」だが日本は「子どもの遊びに加わっている時に楽しそうにする」であった。

関わり方が海外と違うと思ったが日本の関わり方はとてもいいと岩岡氏は評価した。

**・幼児と保育者の関わり方**

ポジティブな関わりは認知能力の発達を促し、ネガティブな関わりは社会情動性の発達を妨げる。

日本は二通りのアプローチがある。

アカデミックアプローチは書道やそろばんなどを教える保育

ホリスティックアプローチは主体性を中心とした保育

どちらもポジティブな対応をすることで伸びていく。

**・幼稚園になぜ「園」という語が用いられてるかという点に関して**

柔らかく耕された地に種子が撒かれるように子供がその持つ力で最も幸せに都合よく伸びていける場所

**・幼稚園教育のPDCA**

発達の理解→指導計画の作成→実践→振り返り・評価　の繰り返し

考えられる体制を例を上げて説明した。

一時預かり事業や様々な工夫ついても説明があった。

**3、新制度五年後見直し等について**

・一号関係の公定価格の見直し

・子ども子育て支援新制度における充実等の概要

・公開保育と学校関係者評価を通じた幼児教育の質向上サイクルの推進

・幼小連携の推進

・給食実施加算の充実・適正化

・預かり保育における特別な支援を要する子どもの受入れ支援等をわかりやすく説明していただいた。

あっという間の八十分で充実した内容だった。

## 研修四

**演題　「オリンピック裏話～緊張とプレッシャー」**

**講師**　オリンピック体操競技金メダリスト　**森末　慎二**氏

「はじめに」

＝今年のオリンピック体操の展望＝

・通常は「地元の利」の器具

？なぜか東京なのに中国の器具

●つまり少々メダルが難しい

内村や白井の調子その他

体操が強い国のレベル

◎上手く行く方法があるとすれば

内村が復活、高校生の頑張り

他国の調子？だのみかも！

（森末さん個人の持論とのこと）

「本題」

＝アトランタまでの裏話＝

・先に「メダル」のこぼれ話

「女神」「重さ」「金メッキ」

メダルの賞金はアトランタから

アマチュアとプロ

●生いたちとオリンピックへの道

・目立ちたがり屋のB型

・小学校での鉄棒との出会い～高校までの動き

（昔のスポーツ選手の生活）

・大学での話

（寮生活・合宿所の生活）

・転機となった「けが」

＝アキレス腱断裂＝

先輩貝志堅とのリハビリ

＝持ち前の体格と

リハビリで得た体力＝

◎ロサンゼルスオリンピックの誠

＝実は地に足がつかないほど＝

半端ない緊張とプレッシャー

・団体戦でのプレッシャー

～平行棒での落下

せっかくの「モリスエ」

～監督の言葉

平行棒は終わり！

～ようやく地に足がついた

得意の鉄棒で実力発揮の「満点」

・種目別鉄棒でのプレッシャー

～朝から緊張

～持ち点の関係から

最終演技者

着地までうまくいけば金

落ちれば４位

＝～いつも通りではない時の演技とは

＝一つ一つ確かめて＝

～『最高のパフォーマンス』

＝金メダル！　やったー＝

「最後に」

＝オリンピックでしか味わえない

緊張感＝

・とても辛い緊張感だが、メダルを目指せる楽しみが素晴らしい

◎夢はいつでも持っていたい

今は今なりの夢を持とう

今年の選手も緊張の中でもぜひ夢に向かってほしい

「追加で」

＝運も実力のうち＝

・小さくて運を使い果たすのではなく、『運』を貯めながら、ここぞというときに使いたいもの

**ひとロメモ**

オリンピックや体操競技の裏話満載で、楽しい時間を過ごすことができたが、世の中の厳しさもたくさん指摘されて身が引き締まる思いも持つことができた。自慢話も後腐れなく話すことで受け入れられる話術もすごい！の一言に尽きる。

やはり「メダルをとる人間は違う」のかもしれない。

とはいえ、自分たちもそれぞれの努力を惜しまず頑張れば、この歳での『夢』も叶うのではと、会場全体が自分を鼓舞できたように思われる。

個人的には、体操のコミック『ガンバフライハイ！』の編集苦労も聴きたかったのですが…

# 研修会だより

**公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構**
**令和元年度 全国研究研修担当者会議**

**期日** 令和二年一月二十三日・二十四日

**会場** 京都府京都市 京都ガーデンパレス

**参加** 教育研究委員長 小倉庸寛
教育研究副委員長 山﨑英明

〈一日目〉

一. 報告「教育研究課題の諸課題について①」

**講師** （公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 **東重満** 氏

二. 報告「教育研究課題の諸課題について②」

**講師** （公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 研究研修委員長 **加藤篤彦** 氏

三. 講演「社会に開かれたこれからの幼児教育を考える」

**講師** 京都教育大学 准教授 **古賀松香** 氏

四. テーマ別協議会
テーマ1 自立した研修の構築について
テーマ2 幼児教育の重要性をどう伝えるか

〈二日目〉

一. 講演「新しい時代に向けて」

**講師** （公財）全日本私立幼稚園連合会 副理事長 **田中雅道** 氏

二. 講演「一人一人の発達に即した幼児教育（幼稚園教育）と教科系統学習の、小学校教育の違いを理解し合い、小学校教育の前倒しではない接続を考える」

**講師** 鳴門教育大学 大学院教授 **木下光一** 氏

**ひとロメモ**

本県から教研委員長・小倉が参加、東副委員長・山﨑がはじめに、させて頂きました。

研修会は、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の東理事長より今年度から変わる教育研究課題の詳細や国の子育て会議、審議会等の現状報告があり、続いて加藤研究研修委員長よりお二人の講演の中で、保育の質の向上のためには、保育者の積極的な参加（公開）と履歴の管理、園内・外研修への参加（ECEQ）を活用した幼・保育の質向上システム（スタートアップ）を活用した第三者評価の推進に関する、社会に開かれた教育課程の意味、教育の価値や、幼児教育の日々の行っている、地域・学校・社会（保護者）と共有する価値を説明することなど、幼稚園教諭・教育者の責任が残っている。これから幼児教育の方向性を考える、強く印象に残った。

## 第三回 保育テクニカル講座

**期日** 令和元年十二月五日（木）
**会場** コンセーレ（大ホール）
**参加内容** 百二名
「保育でのリトミック実践」～リトミックで子どもたちが体験することと、年齢・発達に応じた活動の発展～

**講師** リトミック研修センター本部 研究室員 **渡部紗織** 氏

**ひとロメモ**

「ただ楽しいだけでなく、リトミックを学んだ先生方に、こどもの普段聞けない、見つけるとっておきの大切な保育力を集中力とかを持つ」

リトミックは、正しい知識と決められた自分尊重の形で行われる音楽遊びである。リトミックの活動を通して、自尊心、自律心、感受性や包容力を養い、柔軟に対応する順応性を身につけていく。リトミックは音楽の基礎能力を引き出すツールであることを再確認する研修であった。

## 資質向上研修④

**期日** 令和二年一月十四日（火）
**会場** コンセーレ（アイリスホール）
**参加内容** 七十五名
「カリキュラム・マネジメント」

**講師** 栃木県総合教育センター 幼児教育部（幼児教育センター）副主幹 **前原由紀** 氏

**ひとロメモ**

前原氏によれば、カリキュラム・マネジメントと聞くと難しく考えてしまうことがあるが、教育課程に基づいた反省と計画が出来ているかということである。現在社会に求められている子どもは、自分で考えて自分で判断し、他者と協働して自分で行動できる子であり、これに向かって教育課程の改善を図ることが必要である。

①幼児教育の基本は、方針を挙げた。②幼稚園教育要領の説明にあたり、資質・能力等の領域を踏まえ、幼児教育を行う。③幼児の姿を成長の側面から捉え、次に掲げる幼児教育を行う。

## 資質向上研修⑤

期日　令和二年一月二十八日(火)

会場　認定こども園　今市中央幼稚園

参加　五十名

内容　「ECEQ公開保育研究会」

ひとロメモ

今回の資質向上研修は、ECEQを用いた公開保育研究会だった。会場となったのは日光市の認定こども園今市中央幼稚園である。新しくなってまだ二年という園舎は、二百名を超える園児がのびのび暮らし、様々なことに挑戦し、自分の力を発揮するのに十分なスペースが確保されており、子ども達一人ひとりが自分を表現する姿が見ることができた。

公開保育開始前のオリエンテーションでは、大島副園長からECEQとは何か？という説明や、極力日常の保育を見てもらいたいという今回の公開保育のコンセプトが話された。

公開された学級それぞれに「問い」が設けられ、漠然と保育を見るのではなく、その「問い」に参加者が答える形で公開保育は進められた。午後の分科会においてもそれぞれの学級の「問い」を基に保育の話を展開させることで、より活発で深い研究会となった。

ECEQを用いた今回の公開保育研究会は公開して終わりではなく、今後ECEQコーディネーターと事後の振り返りが行われる。

## 設置者・園長経営研修会

期日　令和二年二月十三日(木)

会場　宇都宮グランドホテル

参加　百二十七名

内容　超少子社会と園の持続可能性　～課題は保育の質と経営の質～

講師　(有)遊育　代表取締役　㈱保育システム研究所　代表取締役　吉田　正幸　氏

ひとロメモ

子ども・子育て支援新制度が施行されて五年が経過しようとしている。令和元年十月からは教育・保育の無償化も始まり、令和二年度から制度の見直しも行われる。これからの幼稚園・認定こども園が制度の見直しに、また少子化にいかに対処していくべきか、栃木県幼稚園連合会でも何度か講演をしていただいている吉田氏から、最新の情報を踏まえた話を聞いた。

そもそもの少子化は、晩婚化・晩産化や国策である女性の社会進出増といったことが要因ではあるが、そこには社会情勢や社会保障など取り巻く環境の変化も大きな要因になっていることは否めない。今回の資料には、それぞれの数値がどう減少してきたかが多く示されているが、推移、減少幅を見れば今後さらに減少をしていくことは容易に想像できる。出生数が減少している中で生まれる数が少なくなれば、その子どもたちが成長し大人になった際の親のなり手が減るのは当然だ。そこに晩婚や晩産となれば、出生数は下がり続けていく。園を運営していく上で子どもの数は絶対的に必要だが、地域の子どもの数が減れば近隣の園との取り合いになることは必定だ。当然子どもの増減は地域差があるが、指導する者の質、そしてよい保育を行えるよう現場の環境を整える経営面での質も含まれる。保育内容を厳選化するなどの見直し、これから減少していく教員を育てる人材マネジメント、そしてICTを活用した仕事量の削減や効率化といった教員の負担減も質の向上に寄与する。これらのことは今回の研修会のみならず、様々な場所で見聞きする機会があったことと思うが、５Gといったインフラの大改革もあるので一層推し進めたい。

雇用に関しての法令も少しずつ改正されるなど、ワークライフバランスに代表される働き方改革が浸透してきた。吉田氏も言うように、人材は人財だ。園に就職し、育った人財をみすみす逃してしまうのは惜しい。ましてや少子化、大都市圏への流出、処遇格差によるなり手不足といった現状、教員がいなければ園児を確保しようにも規模を縮小せざるを得ない。

各園での事情も様々あるかと思う。今はできるところから徐々に改革を行い、来る超少子社会の中で、地域に根ざす幼児教育の施設として、園経営を考えていきたい。

## 幼稚園等問題研究会

期日　令和二年三月十一日(水)

会場　ニューみくら二〇七大会議室

出席者

県保健福祉部こども政策課
子ども・子育て支援班
班長　林　恭子
課長補佐　大根田　敦
主任　菅谷　洋之

栃幼連
副理事長・常任理事・地区会長

ひとロメモ

和やかな雰囲気のなか、栃幼連の石嶋理事長より今回の研究会の趣旨などが述べられた後、こども政策課林班長より新型コロナウィルスに対して各園の協力に感謝の意を表された。

その後、馬場副理事長の司会のもと、以下の事項について協議された。

【協議事項】

（こども政策課より）

・令和二年度県予算の概要について

（当連合会より）

・幼と保（認定こども園）の補助格差を現場は感じる

・私学助成に対する県単補助の増額

・県内の養成校出身者に対し県内で就職した際の助成支給

・とちぎ海浜自然の家における体育館エアコン設置の促進及び県内施設の充実

・私学助成幼稚園における新二号の手続きに関する事務費補助

以上について、活発な意見交換がなされた。

今回の研究会が、よりよい幼児教育に繋がるよう期待する。

# 令和2年度私立幼稚園関係予算案　（単位：千円）

| 事業名 | 令和元年度予算額 | 令和2年度予算額(案) | 概要 |
|---|---|---|---|
| 1　幼稚園運営費補助金 | 2,155,473 | 1,673,555 | 学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成<br>園児1人当たり 196,100円(R1 193,500円)<br>3～5歳　7,733人　満3歳　735人<br>一種免許状加算分2,584千円　処遇改善加算分10,395千円 |
| 2　幼稚園教材費等補助金 | 939 | 900 | 個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成<br>園児一人当たり　39,100円(R1同額) |
| 3　地域子育て推進事業費補助金 | 163,080 | 161,430 | |
| （1）子育てランド事業 | 27,080 | 26,090 | 私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成<br>A　2事業実施かつ市町補助130千円以上<br>1園当たり　130千円<br>B　3事業以上実施かつ市町補助200千円以上<br>1園当たり　200千円 |
| （2）わんぱく保育推進事業 | 136,000 | 135,340 | 私立幼稚園及び認定こども園が行う預かり保育事業に対する助成<br>○通常分　1園当たり　800千円、1,200千円、1,600千円<br>○特定分(4時間超)　1園当たり 160千円、280千円、400千円<br>○長期休業分　1園当たり　160千円、280千円、400千円<br>○休業日分　1園当たり　300千円、480千円、660千円 |
| 4　栃木県私立幼稚園振興財団補助金 | 224,738 | 239,145 | 私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成<br>・補助率　→　教職員標準給与額の29/1000<br>R2から幼稚園型認定こども園の保育機能部分職員を補助対象に追加 |
| 5　特別支援教育費補助金 | 497,057 | 485,296 | 特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成<br>学法　784千円／人(国庫、県単)<br>学法以外　392千円／人(県単) |
| 6　私立学校教職員共済補助金 | 153,399 | 158,221 | 長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(R1同率) |
| 7　栃木県私学団体補助金 | 6,000 | 6,000 | 栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成<br>・補助率　定額(1/2以内) |
| 8　被災児童生徒就学支援等事業費 | 1,028 | 0 | 東日本大震災の被災幼児に係る保育料等減免事業に対する助成<br>・補助率　10／10 |
| 9　幼稚園耐震化事業費 | 618,955 | 316,583 | 認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助<br>・補助率　1／2 |
| 10　幼稚園緊急環境整備事業費 | 75,590 | 81,562 | ○学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成<br>・補助率　認定こども園　1／2、左記以外幼稚園　1／3<br>○認定こども園等における研修支援<br>・補助率　1／2<br>○認定こども園等への移行支援<br>・補助率　1／2<br>○園務改善のためのICT化支援<br>・補助率　3／4 |
| 11　子どものための教育・保育給付費 | 10,120,851 | 11,363,245 | 施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金<br>・県負担割合　全国統一費用部分　1／4<br>(1号園児は地方単独費用部分1／2あり) |
| 12　一時預かり事業 | 246,862 | 281,657 | 一時預かり事業を実施する市町に対する助成<br>・県補助率　1／3 |
| 13　認定こども園整備事業 | 282,627 | 730,173 | 認定こども園の幼稚園部分の施設整備事業を実施する市町に対する補助<br>・県補助率　1／2 |
| 14　第３子以降保育料等免除事業費 | 583,719 | 429,901 | 第3子以降の未就学児の保育料等免除事業を実施する市町に対する助成<br>・県補助率　1／2 |
| 15　子育てのための施設等利用給付費 | 500,000 | 814,734 | 私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金 |
| 計 | 15,630,318 | 16,742,402 | |

## 令和2年度予算案の内容について

1、の「幼稚園運営費補助金」については、総額は減額になっているが、園児1人あたりの単価は増額になった。さらに「処遇改善加算」が実現した。

4、の「栃木県私立幼稚園振興財団補助金」では、令和2年度から幼稚園型認定こども園の保育機能部分職員を補助対象に追加された。

14、の「第3子以降保育料等免除事業費」の対象拡大及び「多子世帯保育料等免除事業」の創設として具体的には、「18歳未満の子どもが何番目の子どもであるかに関わらず、3～5歳の副食費を無料にし、0～2歳の保育料を無料にする」という要望をしましたが、令和2年度予算案に盛り込まれなかったのは大変残念であるが、今後引き続き要望をしていきたいと思う。

その他上記以外の事業については、継続事業となったことに、福田知事をはじめ自民党県議の皆様の尽力に感謝申し上げたい。

振興委員長　山越 忍隆

# 幼児教育センターだより

今年度も各研修や調査研究等、幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。

## 新規採用幼稚園教諭等研修を振り返って

昨年の十二月二十六日に、全日程が終了しました。新採者の表情は、保育者として、また社会人としての成長を感じさせるものでした。

新採者からは、「研修が終わっても、保育者として成長し続けるよう努力していきたい」「同じような悩みをもつ先生方と話し、頑張ろう！という気持ちになれた」「研修を通して自分の保育を見つめ直す時間をもつことができた」「こうあるべきと決めつけず、一人一人に合わせた援助をしていきたい」などの感想が寄せられ、この一年で得たものを糧に、今後の保育に希望を抱いていました。

更なる成長を重ねていけますよう、心より応援しております。

## 幼稚園等教職五年目研修を振り返って

一月十六日に、五年目研修（三日）の全日程が終了しました。今年度は、新たに「保育中の危機管理」の講話を加え、現代的な諸課題を踏まえた教育内容の充実も図りました。

受講者は、初心に立ち返りながら、改めて、五年目としての役割を自覚しているようでした。

今年度は一〇三名が参加しました。

自分のことだけでなく、学年のことや園全体のことを考えていけるように、キャリアアップを目指したいです。

研修を通して自分自身を見つめ直すことができました。何年経っても学び続ける大切さを感じる1年間でした。

受講者は、今後の栃木県の幼児教育を支えていく中核的な存在となると思います。御活躍を期待しております。

## 中堅幼稚園教諭等資質向上研修を振り返って

中堅幼稚園教諭等資質向上研修の全日程（園外研修六日・園内研修十日）が終了しました。今後の栃木県の幼児教育をミドルリーダーとして担っていく二十七名が受講しました。

今年度から、働き方改革の一環として、研修第四日を免許状更新講習の対象とし、七名の免許状更新希望者がいました。次年度も引き続き行っていきますので、御利用いただければと思います。

カリキュラム・マネジメント、組織マネジメント、今日的課題を軸に、園のミドルリーダーとして各課題を深く考えていく内容の濃い研修となっています。他園の同じ立場の受講者と毎回対話を繰り返していく中で、さらに広い視野を得ていました。

上と下をつなぐパイプ役。
ますますの活躍を期待しているぴよ！

## 栃木県教育研究発表大会 ー幼小連携部会ー

今年度は、「つなげよう！幼児期の学び」をテーマに、幼小の円滑な接続についての実践発表を行うと共に、接続期の現状や課題及び教育の在り方についての協議を行いました。

「保育と授業をつなぐ」をテーマに、大切にしたいことをまとめました。

岡本幼稚園　　岸根知子　教諭（右）
御幸が原小学校　黒川　泉　教諭

発表の基になったリーフレットは、センターのホームページに掲載しています。

## ★ご連絡とお願い★

【三月十一日発送予定】

○「園における安全に関する指導資料」を作成しました。今回の要領改訂の趣旨を踏まえ、幼児期にふさわしい生活を踏まえた安全教育のポイントを分かりやすくまとめています。

○次年度の「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」の受講者照会（文書）を発送します。

次年度より受講者の記録をより的確に行うため、生年月日も併せて伺います。お手数ですが、御報告をお願いします。

# こども政策課だより

## 各種提出書類について

●**運営費補助金（全体分）**

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二〇年五月上旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇一九年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いします。

●**教材費等補助金（全体分）**

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二〇年五月上旬（予定）です。

●**運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）**

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇二〇年四月上旬（予定）です。

●**二〇一九年度決算書及び二〇二〇年度予算書の提出について**

二〇一九年度決算書及び二〇二〇年度予算書の提出期限は、二〇二〇年六月三十日（火）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレスがある幼稚園・認定こども園宛てに別途メールでお送りします。

●**資産総額の変更登記済届**

二〇一九年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期限（五月末日又は六月末日）までに行い、期限後一ヶ月以内に登記済届を提出してください。

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

## 園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断及び耐震化が、より一層求められています。

近年発生した地震では、耐震化が未完了の建物における被害が多数生じており、発災の時間帯によっては、人命に関わる甚大な被害へと繋がる恐れがあります。

本県の私立幼稚園等の耐震化率は、二〇一九年四月一日現在で八七.〇%ですが、全国平均九十一.〇%と比べ、依然低い数値となっています。

二〇二〇度においても引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課を含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。



## 令和二年 四月～六月までの事業予定

| | |
|---|---|
| 4月3日 | 新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修） |
| 5月13日 | ※5年目研修 |
| 5月19日 | ※幼小連携推進者養成研修 |
| 5月21日 | 栃幼連 定時総会（令和元年度決算総会） |
| 5月28日 | 0・1・2歳児研修 |
| 5月29日 | ※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 |
| 6月1日 | 保育テクニカル講座 |
| 6月2日 | ①新採研 公開保育（宇大附属幼稚園） |
| 6月5日 | ※教育課程研究集会 |
| 6月9日 | 資質向上研修（視察研修） |
| 6月11日～12日 | 全私幼退団協議会総会（山梨県） |
| 6月13日 | 公開保育研究会（宇大附属幼稚園） |
| 6月16日 | ※新採研 指導助言者説明会 |
| 6月17日 | 保育セオリー講座 |
| 6月19日 | ※幼児期の特別支援教育研修 |
| 6月22日 | 認定こども園委員会研修 |
| 6月23日 | ※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 |
| 6月24日 | ②新採研 公開保育（宇大附属幼稚園） |
| | ※は幼児教育センター事業 |

＊総会予告＊

令和二年度

**栃幼連 定時総会**

（令和元年度 決算総会）

令和二年五月二十一日（木）

会場：コンセーレ

## 台風19号に伴う義捐金の御礼

**総額 7,700,349円**

昨年10月に発生した「台風19号に」伴う義捐金をご依頼差し上げたところ、県内の保護者の皆様、加盟園の設置者・園長・施設長の皆様より大変多くのお心のこもったご厚志を頂戴しました。皆様のご協力にあらためて深く御礼申し上げます。義捐金は被災された園及び栃木県知事へお送りさせていただきました。

## 編集後記

カーナビが世に出た約30年前、「なぜ、30万円も払ってカーナビが必要なのか？地図と、どこが違うのか？」ということが、雑誌の記事になっておりました。

そして、こう書かれておりました。

**理由1 「自分の居る場所がわかる」**

**理由2 「自分の向いている方向がわかる」**

なるほど、納得です。

ところで先日、写真館で撮影していただく機会がありました。

写真スタジオに入ると、カメラマンは私のネクタイの曲がりを正し、その椅子に座るように促しました。

**カメラマン「右肩が下がってますね。もう少しあげて」**

**私（あぁ、はいはい）**

**カメラマン「上げすぎ。上げすぎ。もう少し下げて」**

**私（あぁ、はいはい）**

**カメラマン「顔をまっすぐに。そして顎をひいて」**

**私（あぁ、はいはい）**

**カメラマン「顔がまだ曲がってますねぇ。もう少し首を・・」**

**私（・・・・・・）**

こんなやり取りが、しばらく続いてようやく撮影が終了いたしました。

自分の体でさえ、位置や方向（向き）が中々わからないんですね。

「子は親の鏡」と言いますが、

**①我が子をみて、自分は親として、正しい位置にいるのだろうか？**

**②我が子をみて、自分は親として、正しい方向を向いているのだろうか？**

わかりません。

現在では、当たり前のように車にはカーナビがついておりますが、私の頭の中にも、取り付けていただきたいものです。

（静林幼稚園　伊沢　信恭）